

一般社団法人
日本防水材料協会®

経験を活かし、技術を伝承し、防水を支える



経験を活かし、技術を伝承し、防水を支える



WATERPROOF

経験を活かし、技術を伝承し、防水を支える



一般社団法人日本防水材料協会(略称 JWMA)は、平成 18 年 4 月 1 日に設立された日本防水材料連合会から平成 30 年 4 月 1 日に改組、改称しました。

日本防水材料協会は、社会的課題となっている環境問題、省エネルギー対策等を通じて技術の研鑽・品質の向上促進、人材教育への寄与など業界発展のための活動を行います。

また、官公庁、学会等と協力し防水材料の性能向上、防水仕様の信頼性向上に努め

我が国の建設産業の発展に寄与することを目的として活動致します。

主事業

1. 防水に関する知識の普及啓発
2. 防水材料メーカーとして防水に関する意見を発表
3. 国内外の防水に関する情報収集、調査研究、各種統計の実施
4. 官公庁・学会・建設業会との連携事業
5. 各会員相互の連絡、親睦事業

JWMA 組織概要

名 称：一般社団法人 日本防水材料協会（略称 JWMA）
Japan Waterproofing Materials Association

所 在 地：〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町 9-2 日新中央ビル 3 階
TEL. 03-6661-9033 FAX. 03-6661-9034

U R L：https://www.jwma.or.jp

設 立：平成 18 年 4 月

事業年度：毎年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

会 長：伊藤 貴志

副 会 長：井上 隆司 林 修一

専務理事：中沢 裕二

理 事：糸平 敏也 加藤 博一 川島 裕之 櫻田 稔

瀬瀬 秀春 陶山 敦 沼田 勝己 長谷川 靖

若林 康人 香月 圭介

監 事：山村 光司 高橋 光一

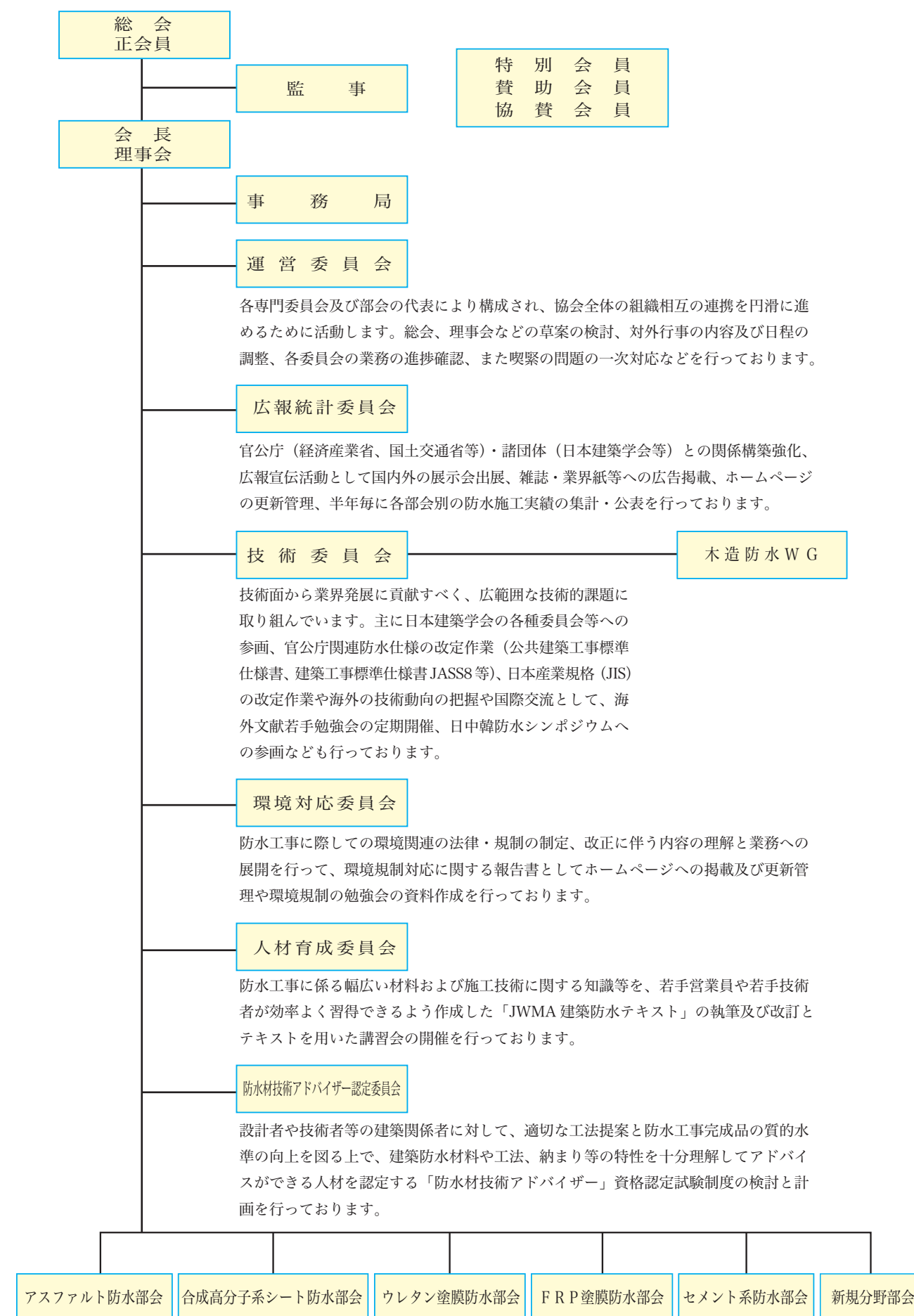
会 員：97 社・団体

2025/6/13 現在

会員の種別

- * 正 会 員 防水材料等の生産事業者及びこれらに準ずる事業者
- * 特別会員 防水工事業の協同組合及び工業会等
- * 賛助会員 防水材料の原料メーカー、原料商社及び副資材メーカー等
- * 協賛会員 防水材料の販売商社等

組織図

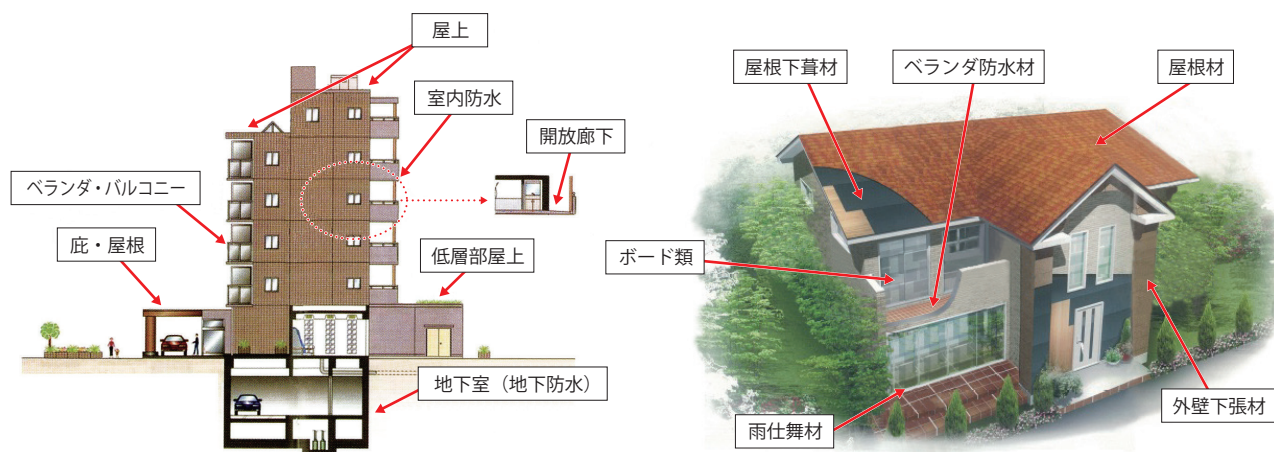


防水の重要性

防水工事とは「建物内に水の浸入や透過を防ぐ」ための工事です。最適な条件で打設されたコンクリートの透湿係数は非常に小さな数値となりますが、コンクリートは硬化・乾燥時や、温度変化による膨張収縮の繰り返しによって生じるひび割れや、施工上の打継ぎが雨漏りの原因になり、躯体に侵入した雨水が建物の劣化につながります。この雨水浸入を防ぐために「防水」を施すわけです。住宅の屋根やベランダ、ビルの屋上や厨房、浴室、外壁をはじめ、屋上駐車場など防水は建物の様々な部位で使われています。

建物には必ず防水材が使用されており、とても重要な役割を持っています。建物に防水が施されなければ、建物の寿命は短期間で尽きてしまいます。建物の寿命を長持ちさせるため、防水は私たちの生活に欠かせないものなのです。

防水が施工されている箇所



防水の種類

アスファルト系防水	アスファルト防水（熱工法）
	改質アスファルト防水（トーチ工法・常温粘着工法・常温複合法）
	住宅建材（屋根下葺材・外壁下張材・雨仕舞材）
合成高分子系シート防水	加硫ゴム系シート防水（接着工法・機械的固定工法）
	塩化ビニル樹脂系シート防水（接着工法・機械的固定工法）
	非加硫ゴム系シート防水（接着工法）
	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水（密着工法）
	熱可塑性エラストマー系シート防水（接着工法・機械的固定工法）
塗膜系防水	ウレタンゴム系塗膜防水（密着工法・絶縁工法）
	F R P系塗膜防水（密着工法）
	アクリルゴム系塗膜防水
	ゴムアスファルト系塗膜防水
セメント系防水	ポリマーセメント系塗膜防水
	ケイ酸質系塗布防水

様々な防水施工例

●オフィスビル



●ショッピングセンター屋上駐車場



●屋上緑化防水



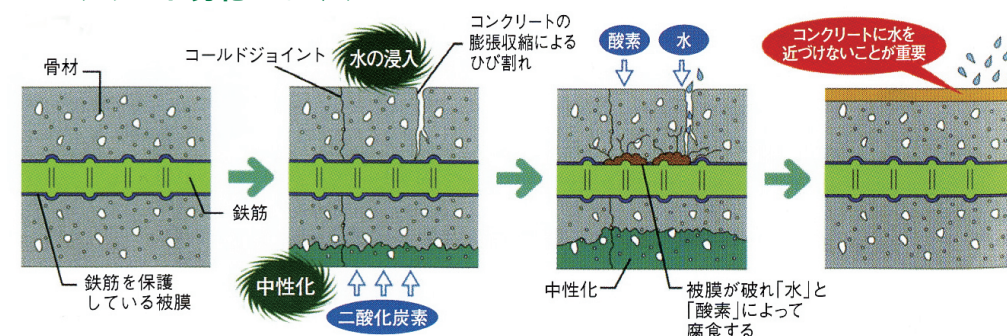
●戸建住宅バルコニー防水



何故コンクリートに防水が必要か

一般的にコンクリートの透湿係数は、 $1 \sim 100 \times 10^{-11} \text{ cm/sec}$ 程度と非常に小さな値となりますが、コンクリートの硬化・乾燥収縮率は、 $4 \sim 10 \times 10^{-4}$ 程度であり、硬化・乾燥収縮の過程でコンクリートにはひび割れが発生します。その表面に水が流れると一部の水が吸収され、コンクリート構造物内部の鉄筋位置に到達し鉄筋の腐食が起こります。このような過程を経てコンクリート構造物の劣化が進行し寿命を短くしてしまいます。これを防止するには、建築・土木を問わず「コンクリート内への水の浸入を防ぐための防水」が必要です。

■コンクリート劣化のしくみ



日本の防水と JWMA の歩み		
1905 年	明治 38 年	・大阪瓦斯本社ビルに本格的なアスファルト防水施工
1919 年	大正 8 年	・アスファルトルーフィングの完全国産化
1950 年	昭和 25 年	・建築工事共通仕様書制定。アスファルト防水工事を新設
1952 年	昭和 27 年	・塩化ビニル樹脂シートが国鉄車両屋根材として採用
1959 年	昭和 34 年	・JIS A 6005 アスファルトフェルト制定 ・JIS A 6006 アスファルトルーフィング制定 ・JIS A 6007 砂付ルーフィング制定
1965 年	昭和 40 年	・日本ルーフィング工業会設立 ・ウレタン塗膜防水上市
1969 年	昭和 44 年	・JIS A 6008 合成高分子ルーフィングシート制定 ・日本ウレタン防水協会発足
1970 年	昭和 45 年	・JIS A 6009 基布その他を積層した合成高分子ルーフィングシート制定 ・合成高分子ルーフィング懇話会発足
1971 年	昭和 46 年	・JIS A 6011 防水工事に用アスファルト制定（1980 年に JIS K2207 に包含される） ・JIS A 6012 網状アスファルトルーフィング制定
1972 年	昭和 47 年	・建築工事標準仕様書・同解説 JASS8 防水工事（日本建築学会）発刊 屋根アスファルト防水工事、屋根合成高分子ルーフィング防水工事
1973 年	昭和 48 年	・建築工事共通仕様書（昭和 48 年版・建設省）にシート防水が採用
1975 年	昭和 50 年	・軟質 FRP 防水上市
1976 年	昭和 51 年	・JIS A6021 屋根防水用塗膜材制定
1977 年	昭和 52 年	・JIS A6022 ストレッチアスファルトルーフィング制定 ・JIS A6023 あなあきアスファルトルーフィング制定
1978 年	昭和 53 年	・合成高分子ルーフィング懇話会が合成高分子ルーフィング工業会に改組 ・日本ウレタン防水協会が日本ウレタン建材協会と改称
1981 年	昭和 56 年	・建築工事標準仕様書・同解説 JASS8 防水工事（日本建築学会）改定、塗膜防水を新設
1984 年	昭和 59 年	・日本ウレタン建材協会が日本ウレタン建材工業会に改称
1985 年	昭和 60 年	・旧アスファルトルーフィング工業会設立
1988 年	昭和 63 年	・トーチ工法ルーフィング工業会発足
1989 年	平成 元年	・FRP 防水工法研究会発足 ・建築工事共通仕様書（平成元年版・建設省）、ウレタン塗膜防水仕様 X-1・2・3 採用
1992 年	平成 4 年	・建築改修工事共通仕様書（平成 4 年版・建設省）制定 アスファルト防水、合成高分子ルーフィングシート防水、塗膜防水 ・JIS A6008,6009 が改正・統合され、JIS A6008 合成高分子系ルーフィングシート制定
1993 年	平成 5 年	・建築工事標準仕様書・同解説 JASS8 防水工事（日本建築学会）改定、改質アスファルトルーフィングシートを新設
1994 年	平成 6 年	・FRP 防水工法研究会の名称を FRP 防水工業会に変更
1997 年	平成 9 年	・木造建築工事共通仕様書（建設省）制定
1998 年	平成 10 年	・日本ルーフィング工業会と旧アスファルトルーフィング工業会が合併、アスファルトルーフィング工業会設立
2001 年	平成 13 年	・建築工事共通仕様書（平成 13 年版・国土交通省）、改質アスファルトシート防水を新設
2002 年	平成 14 年	・建築改修工事共通仕様書（平成 14 年版・国土交通省）、改質アスファルトシート防水を新設 ・日本ウレタン建材工業会が環境対応ウレタン防水材システム認定制度発足
2003 年	平成 15 年	・木造建築工事標準仕様書（国土交通省）に改称

2004 年	平成 16 年	・公共建築工事標準仕様書（平成16年版・国土交通省） ・公共建築改修工事標準仕様書（平成16年版・国土交通省）
2006 年	平成 18 年	・日本防水材料連合会（JWMA）発足 ・JWMA 海外文献勉強会開催（以降毎年開催）
2009 年	平成 21 年	・JWMA 第 7 回 中国国際屋根建築防水技術展出展（以降継続参加） ・第 1 回 日中韓防水シンポジウム 東京工業大学
2010 年	平成 22 年	・JWMA 屋上防水の調査マニュアル発刊 ・第 1 回 JWMA 研修会開催（以降毎年開催） ・第 2 回 日中韓防水シンポジウム ソウル科学技術大学
2011 年	平成 23 年	・日本防水材料連合会（JWMA）一般社団法人登録 ・JWMA 第 1 回 若手勉強会開催（以降適宜開催） ・第 3 回 日中韓防水シンポジウム 浙江工業大学
2013 年	平成 25 年	・建築・建材展出展（東京国際展示場） ・公共建築工事標準仕様書（平成 25 年版・国土交通省）、ケイ酸質系塗布防水を新設 ・第 4 回 日中韓防水シンポジウム 早稲田大学
2014 年	平成 26 年	・JWMA 建築防水テキスト発刊、研修会開催
2015 年	平成 27 年	・JWMA メンブレン防水材料の環境規制対応に関する報告書（2015 年版）策定 ・第 5 回 日中韓防水シンポジウム 韓国・済州 MAISON GLAD HOTEL ・建築工事標準仕様書・同解説 JASS8 防水工事（日本建築学会）改定 ウレタンゴム系防水材高伸張形、高強度形に分類 ・JWMA 防水保証ガイドライン 2015 年版発刊
2016 年	平成 28 年	・JWMA 環境対応研修会開催 ・公共建築・改修工事標準仕様書（平成 28 年版・国土交通省）、エチレン酢酸ビニル系シート防水を新設 ・JWMA メンブレン防水材料の環境規制対応に関する報告書（2016 年版）策定
2017 年	平成 29 年	・JWMA リスクアセスメントツール作成 ・NRCA コンベンション代表団派遣（ラスベガス） ・第 6 回 日中韓防水シンポジウム 中国・北京 北京友誼賓館 ・JWMA メンブレン防水材料の環境規制対応に関する報告書（2017 年版）策定
2018 年	平成 30 年	・日本防水材料連合会を『一般社団法人 日本防水材料協会』に改組、改称 ・JWMA 有機溶剤安全作業の手引き 発刊 ・JWMA 屋上防水の調査マニュアル 第 2 版 発刊 ・特許庁に「日本防水材料協会」、「JWMA」の商標登録を申請 ・JWMA メンブレン防水材料の環境規制対応に関する報告書（2018 年版）策定
2019 年	平成 31 年 令和 元年	・第 7 回 日中韓防水シンポジウム 早稲田大学 ・日本ウレタン建材工業会創立 50 周年 ・合成高分子ルーフィング工業会 50 回記念総会を開催 ・JWMA メンブレン防水材料の環境規制対応に関する報告書（2019 年版）策定
2020 年	令和 2 年	・「日本防水材料協会」、「JWMA」の商標登録が許可される ・JWMA 防水保証ガイドライン 2020 年版発刊
2021 年	令和 3 年	・JWMA メンブレン防水材料の環境規制対応に関する報告書（2021 年版）策定
2022 年	令和 4 年	・公共建築・改修工事標準仕様書（令和 4 年版・国土交通省） アスファルト防水 B-3、BI-3、D-3,4、シート防水 S-M3 廃止 ・建築工事標準仕様書・同解説 JASS8 防水工事（日本建築学会）改定 面材張付け防水工事、面材固定防水工事、不定形材塗布・吹付け防水工事、面材・不定形材積層防水工事 ・JWMA メンブレン防水材料の環境規制対応に関する報告書（2022 年版）策定
2023 年	令和 5 年	・第 1 回 JWMA 防水材料技術アドバイザー認定試験 ・JWMA 木造建築物 防水工事施工指針 制定 ・第 8 回日中韓防水シンポジウム 韓国・ソウル THE RIVERSIDE HOTEL 江南 ・JWMA メンブレン防水材料の環境規制対応に関する報告書（2023 年版）策定
2024 年	令和 6 年	・第 2 回 JWMA 防水材料技術アドバイザー認定試験 ・JWMA メンブレン防水材料の環境規制対応に関する報告書（2024 年版）策定
2025 年	令和 7 年	・第 3 回 JWMA 防水材料技術アドバイザー認定試験 ・JWMA メンブレン防水材料の環境規制対応に関する報告書（2025 年版）策定